

令和2年度



学校だより

伸びよう 豊かに たくましく ~学ぶ喜びにあふれた学校をめざして~

令和2年8月17日
横浜市立高田小学校

8・9月号

「子どもの『今』を信じて」

副校長 田島 良子

「これから、子どもの宝探しをしていくんですね。ちょっとわくわくしてきました。」

今日、久しぶりに昇降口を開けたときに、風がこんな声を運んできました。それは、面談にいらしたお母様が帰り際に、この扉を開きながらつぶやかれた言葉です。

私もすぐに、その風にこたえました。

ええ、そうです。休みが終わったので、今度は私達、学校の番です。

いつもより短い夏休み。宿題の無い夏休み。移動に自粛を求められた夏休み。経験したことのない異例の夏となりました。教育界では「GIGA スクール構想」の実現のため、急ピッチで整備が進められているところです。検討事項や課題は次から次へと出てくることと思われませんが、いろいろな可能性が投げられたことは間違いありません。

15年ほど前のことでしょうか、社会科の学習をしているときに分からない言葉が出てきました。教室に数冊置いてある辞書で調べようと数人が席を立つやいなや

「先生、わかったよ。」

と、明るい声が聞こえました。そう言った子の手の先には電子辞書がありました。学級はその新しい道具に釘付けとなり、騒然となりました。調べたいことはもちろんのこと、それ以外に関連することも出てきて、「いいなあ。今度の誕生日プレゼントはそれにしよう。」と言う子までいました。そんな刺激的な出来事の中で、学校に持ってきてはいい物になっていないことや、辞書を手で引くことの大切さなどを指導したことは、思い出すと恥ずかしいかぎりです。

子どもたちはどんな状況にいても、自分の興味を自分なりに、その状況の中で繰り広げていく逞しさをもっていると思います。それどころか、小学生のその興味の広げ方は、夏の植物の成長の勢いにも似ています。つい、課題を計画的に進めている姿を見ることに安心感をもってしまうのですが、子どもが夢中になって何かをしている中には、その子なりにとらえようとしている何かがあるように思えてなりません。この子がこの先の長い人生をのびのびと生きていくのに大切なものを、今まさに伸ばしていこうとしているのではないかと。

昇降口でのお母様の言葉のとおり、子どもがやっていることに寄り添う中で、見えなかった「宝物」に出会うことがあるかもしれません。もし、そんな心ときめく瞬間を目にしたら、私達はすぐにお知らせします。見つけた喜びを、ぜひ聞いてください。

まだまだ、いろいろなことが不確定なままに進んでいくことが心苦しいばかりですが、どうぞ、これまでと同様に、ご理解とご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。